










取組事例の名称等
愛知県立みあい特別支援学校 高等部
(農福連携の取組)



取組の内容	ねらい	学習者の状況	成果指標
取組の内容	工夫	学習者の反応	学習の効果&主に育まれる力
<p>1 ユニバーサル農園の活用・整備 (通年)</p>	<p>卒業後の積極的かつ持続的な社会参加を目指し、体験的な学習等により実践力を積み上げ、課題を解決したり個々の手段で思いやりや考えを伝えたりする力を育成する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 四季を通じた作業の中で、地域の方と共同で季節ごとの野菜を栽培。 地域と連携し、世代を超えた交流の場を整えるため、各関係者と定期的にオンライン会議を実施。 耕運機の作業では、生徒が地域の方へ操作方法を教えることで、生徒が学んだ知識を活かす機会を設け、学びを深めることや、主体性を引き出すよう工夫。 地域の方に生徒の実態を知ってもらうため、構造化、視覚化を取り入れた支援方法の伝達。 校内で販売学習を実施。 本校の取組を積極的に発信するため、マスメディアに取材を依頼。 <p>📍 本物体験 📍 見守り</p>	<p>生徒一人一人の障害特性は様々である。</p> <ul style="list-style-type: none"> 初めてだけど、楽しくお話ししながら収穫できた！ 岡崎市全体で農福連携を盛り上げようと会議全体の熱量の高まりが感じられた。 初めての体験で、優しく丁寧に教えてもらい嬉しかったです。(地域の方) 去年に比べてたくさん野菜が育っている！ 自分たちが育てた野菜を売ることの満足感や充実感を感じていた。 取材は緊張したけど、新聞に載って嬉しかった！  	<p>卒業後の積極的かつ持続的な社会参加を目指し、体験的な学習等による実践力を積み上げ、課題を解決したり個々の手段で思いやりや考えを伝えたりする力を育成できたか。</p> <ul style="list-style-type: none"> 関係者との定期的な報告会の開催による学校運営体制を整えることで、生徒の地域との交流の幅が広がり、社会性が育まれた。 新聞やテレビ、関係機関の SNS 等で本校の取組を発信してもらうことで、本校の教育活動の理解とアピールに有効的であり、取組を知った方や企業から新しい活動や、励ましの手紙や電話、製作に必要な材料をいただくこともあり、さらなる学びにつなげることができた。 
<p>2 フラワーアレンジメント制作 (通年)</p>	<ul style="list-style-type: none"> 制作したフラワーアレンジメントを岡崎市社会福祉協議会へ生徒自らが納品に行くことで、地域の方とコミュニケーションを図る機会を設定。 フラワーアレンジメント講師からの、主となる色を決める、グリーンを活用するなどの具体的なアドバイス。 生徒同士が対話し、よりよいアイデアを出し合えるような環境づくり。 <p>📍 本物体験 📍 見守り</p>	<ul style="list-style-type: none"> 講師からのアドバイスを取り入れてフラワーアレンジメント作品に、生徒自身も満足している様子で、笑顔が見られた。 緊張していたが、制作した思いを伝えるなど感情を込めて納品していた。  	<ul style="list-style-type: none"> 講師からのアドバイスにより、作品の完成度が高まり、その成果を生徒同士や納品時に共有することで、達成感を得て、次回の制作に活かすことができた。 
<p>3 県立農業大学校との連携 (9～3月)</p>	<ul style="list-style-type: none"> 同校の近隣にある愛知県立農業大学校と、校外作業学習(野菜の栽培、収穫等)で連携を行うことで、生徒の経験を広げる機会を設定。 <p>📍 本物体験 📍 見守り</p>	<ul style="list-style-type: none"> 状態のよい野菜の見分け方を学びました！ 愛情を込めて育てると、野菜も大きく成長すると教えてくれました！ 	<ul style="list-style-type: none"> 栽培方法や収穫するタイミングなど、専門性の高い知識を学ぶことができた。 普段関わりのない方とも、農業を通じて交流することで会話が弾み、社会性が身に付いた。 

■愛知県立みあい特別支援学校 高等部（農福連携の取組）

- ・岡崎市と幸田町を通学区域とする知的障害の児童・生徒を対象にしている学校。
- ・高等部の作業学習の一環として、2022（令和4）年度から本格的に活動。園芸班を中心に農福連携に携わっている。
- ・地域とのつながりを大切に、岡崎市社会福祉協議会、柴久園、JA あいち三河を始めとする各関係者との連携を図っている。
- ・地域だけでなく、本校小学部、中学部にも農業体験を呼びかけ、校内の活性化を図っている。



法性寺ねぎの苗植え体験をおかざき農遊会から指導を受けている様子



市内のキッチンカーと提携し、収穫したさつまいもを調理してもらい、収穫に関わった関係機関や本校児童を呼んで喫食体験を行っている様子

学習者の変容

【生徒のコメント】

- ・僕たちが一生懸命育てたさつまいもを、こんなにも美味しく調理してもらい、みんなに喜んでもらえてすごく嬉しかったです。
- ・私たちが作ったフラワーアレンジメントを飾ってもらえて嬉しいです。

【先生のコメント】

- ・地域の方々との関わりの中で、質問で聞かれたことだけを答えていた生徒が、自らコミュニケーションを図ろうとする場面が何度も見られた。

【各関係者のコメント】

- ・フラワーアレンジメント制作を通して、人も花と同じようにみんなで支え合いながら存在しているということを理解してもらうことができた。
- ・納品に来るたび、生徒さんたちの挨拶の声が大きくなってきて、表情も明るくなっている。

成果と課題

【成果】

- ・野菜の栽培、フラワーアレンジメント等の取組を地域と連携・協働して実践的な学習活動とすることで、生徒の経験の幅を広げることができた。
- ・一人一人の特性に配慮しながら、体験的な学習等を実施することで、課題解決に向けた活動とすることができた。
- ・専門的な知識や作業能力だけでなく、「対話力」「思考力」「表現力」といった社会性が身に付き、教育的効果がかなり高まったと感じている。

【課題等】

- ・地域の方々や外部関係機関と関わる中で、本校の取組に非常に協力いただいているが、お互いの思いを合わせて活動していくにはコミュニケーションがさらに必要であると感じる。双方の思いを汲み取り、方向性を同じくし、時間と場を設けて持続ある活動を行っていきたい。